

島根県公立小中学校
事務職員研究会
会長：吉賀孝則
(川本町立川本中学校)

編集：情報部

VOL.77 2023.8.8 (夏祭号)

発行責任者 坂井 佳恵 (大和中学校)

島事研ホームページ
<http://shimajiken.com>



爽



【目次】

- ▶ 今年度の事業について (会長)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 出雲教育事務所に勤務して
- ▶ 研修報告
- ▶ 学校紹介
- ▶ まんが「しまじいとけんくん」
- ▶ 編集後記



今年度の事業について

会長 吉賀孝則

新型コロナウイルスも第5類へ移行となり、感染防止対策も緩和され、社会全体や学校環境もコロナ禍前に戻りつつあるように感じています。コロナ禍により急激に進められたGIGAスクール構想は、ICT機器を更に整備活用すること、働き方改革を意識した業務改善等は、より推進することが求められます。今後は、子どもたちの豊かな育ち(学び)を支援しつつ、新しい学校教育について考えていく必要があると思います。

さて、6月6日の代議員会において、活動方針並びに事業・予算について承認をしていただき、今年度の島事研活動が本格的にスタートしました。活動方針の重点的取組に「ICT等を活用し各事業の効率化と浸透を図り、会員に還元できる取組を推進する」と掲げました。各事業や活動等の見直しを行い、少しずつでも会員及び役員等の負担軽減や島事研活動全般における経費削減等を意識し、より良い研究会活動となるよう改善していきたいと思えます。

その一つとして、事業全般にオンライン(Zoom)の活用が必要であると考え、第1回理事会及び代議員会を初めてオンラインで開催しました。会議前にZoomへの接続不備が数件あったものの、会議自体に大きな支障をきたすようなトラブルはなく、無事終了しました。第2回理事会についても、オンラインでの開催を検討していきたいと思えます。

また、第53回島事研研究大会(益田大会)については、参集を基本とし、オンラインも併用したハイブリッド大会となるよう、主管の益田教育事務所管内研究大会準備委員会で、準備を進めております。ハイブリット大会としておりますが、オンラインでの参加につきましては、視聴方法や参加数に制限がありますことをご了承いただき、島事研の主要事業である研究大会に、多数の方にご参加いただきますよう、お願いいたします。

最後に、島事研の目的を念頭に置き、島事研の発展・向上に努めて参りますので、会員の皆さん、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

研究部 コーナー

今年度の島事研研究部の活動について



第六次研究中期計画が本格的にスタートして、2年目となりました。

この研究中期計画では、島事研が考える「事務をつかさどる」について、私たちの業務・仕事は、今のままでよいのだろうかという考えを基にして『業務の再設計』と『仕事の設計』を行い、それらを『再構築』することだまとめ、研究を進めています。

そして、会員の皆さまには、「つかさどる」を形にするために、前半の令和4年度から令和6年度については、『基礎研究』を行う期間と定めて、会員一人ひとりの研究活動を、できる限り地域の組織で互いにサポートし合うという形で、実践に取り組んでいただいています。

第六次研究中期計画の詳しい内容を記載した PDF ファイルを、会員の皆さまは島事研キントーンから、そして島事研の研究活動に興味を持ってくださった他の都道府県の学校事務職員の皆さまは、島事研の Web サイトから、それぞれダウンロードすることができます。

ぜひ、お読みいただきたいと思います。



さて、今年度の島事研研究部の活動についてです。

おかげさまで、令和3年度は33件、令和4年度には62件の『研究の記録』が、島事研のキントーンに登録されました。2年間でそれだけの数の実践の記録が集まっています。

そして、会員の皆さまはインターネットを通じて、それらを自由に閲覧できます。つまり、島根県内の学校事務職員が取り組んだ実践に、手軽に触れるチャンスがあるということになります。まずは一度、ざっとでもいいのでご覧になってください。

研究部は、その中から、会員の皆さまにも知っていただきたいと思った取組を、研究大会発表という形でご紹介しています。

今年度は研究発表のテーマを「業務改善」と定め、令和4年度の取組から4人の方に発表していただきます。

一口に「業務改善」と言っても「効率をよくするための方法・手法」「業務の精度を上げるための方法・手法」と様々な切り口があると考えます。

それぞれの発表者の方が取り組まれた「業務改善」の内容について、研究大会発表を通じて、参加者の皆さまにも知っていただき、考えていただきたいと思っています。

現在、研究大会発表に向けて、発表者と研究部員が連携しながら、発表に向けた準備を行っています。ぜひ、多くの方に参加していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

出雲教育事務所に勤務して



出雲教育事務所 総務課 稲葉 直人

出雲教育事務所で勤務して2年目になりました。庁舎の5階にあるため、階段であがるのが良い運動になると言われていましたが、1年目はほとんどエレベーターを使っていました。2年目は階段であがって行く回数を増やしたいと思います。

昨年の4月は様々な事案の問い合わせがあり戸惑いましたが、総務課スタッフの方々からアドバイスをいただきながら対応することができました。これまでの人事交流で事務所勤務された先輩方から声をかけていただき心強く思いました。

今年度は非常勤講師の任用担当をしています。服務等の問い合わせに赤本を確認することがあり、今までしてこなかった習慣を身につける良いきっかけになりました。

また非常勤講師の多さから教員不足を実感します。引き受けていただいた方々が気持ちよく仕事ができるよう、不利益のないように務めていきたいと思っています。

教育事務所に勤務して感じたことは、総務課スタッフの皆さんは様々な部署で勤務しておられ、これまでの知識と経験による様々な視点から物事に対応されていることです。そしてまた、学校事務職員として行政の仕組みを知ることができました。

人事交流が始まって10年余りになります。このような経験をする機会をつくっていただいたことに感謝しています。

これからも学校現場で働く全ての人が少しでも気持ちよく働けるよう、頑張っていきたいと思っています。



新任事務リーダー研修を受講して

出雲市立斐川西中学校 加藤 淳也

5月30日に島根県教育センターにおいて、新任事務リーダー研修を受講しました。本年度は受講対象者が3名と、会場はやや寂しく感じましたが研修は得るものが多くありました。

研修内容は以下の3講義。

1 教職員の倫理・サービス 2 事務リーダーの職務 3 組織マネジメント

それぞれの講義が育成指標に基づき計画されており事務リーダーとして押さえておくべきポイントが随所にみられる内容となっていました。

倫理とサービスについては、主事の期から事務リーダーの期まで同様の研修が繰り返し行われてきています。研修を受講するたび「当事者意識」という言葉にハッとさせられます。結果的に何事も起きてはいませんが、あの時の運転は事故につながるものではなかったか、あの時の発言は相手を傷つけてしまうものではなかったかなど、振り返ると自分自身にも不祥事の芽はいくつも思い当たるものがあり、定期的に受けるこの研修は「当事者としての意識」を再認識するために大切だと考えさせられました。

事務リーダーの職務では、人材育成基本方針をもとに事務リーダーに求められる資質能力について話されました。

「所属校及び事務グループにおける課題に基づく業務の改善・効率化に取り組み、グループ内学校事務職員の資質能力の向上を図る指導力」

これは、事務リーダーの育成すべき資質能力を示したものです。

主事から事務主幹までは学校事務職員としての資質能力を育成する期と示していますが、事務リーダーにはこれまで培ってきた知識や経験（資質能力）を事務グループ員に対して適切に伝え、全体の学校事務の向上（及び教育の質の向上）を図る指導力が必要であると示されています。事務グループ活動においてはとにかく自分で引き受けてしまいがちですが、全体を見渡し、グループ員それぞれの得意分野、苦手な分野を見極めながら、伸ばす声掛けや適切な業務分担を行うことが必要であると感じました。

組織マネジメントについては、同日開催された新任校長研修と合同で実施されました。本研修は現代教育改革の動向を踏まえ、学校の組織力向上に向けた校長のリーダーシップの在り方について検討することを目的と定めています。

研修では校長とのグループ協議が設定されておりお互いの考えをすり合わせる時間が持てました。話を進める中で管理職が考える学校経営に関する視点と学校事務職員が考える学校運営に関する視点にはいい意味でのずれがあり、管理職の考えを聞いたうえでそこに対する学校事務職員としてのかかわりの具体を提案できたことは自分にとって大きな学びとなりました。



今回の研修を受講して、これまで学校事務職員として学んできた内容とは大きく質が異なるものであると感じました。学校事務職員として必要な知識を習得する期からこれまで学んできた知識や経験をいかに伝えていくか、その能力が求められる期に入ったのだと感じる研修となりました。

中央研修報告

お金がない！

浜田市立三階小学校

白瀬 愛美

この場をお借りして、令和4年度の中央研修に参加した報告をさせていただきます。よろしくお願いします。

私が参加した研修は、事務長又は学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う者を対象とした5日間の事務職員研修でした。全国から実力のあるベテランのみなさんが集まる研修に、私のような者がうっかり紛れ込んでしまい、置いて行かれないように精一杯背伸びをして過ごした5日間でした。

5日間かけて〇〇マネジメントとタイトルのついた講義がたくさんあり、とにかくこれからはあらゆる場面においてマネジメント力が重要になるのだなと感じました。それらの中から、今回は財務マネジメント研修について報告したいと思います。

さて、「うちの学校はお金がないから」というセリフ、私はついつい言ってしまっていました。しかしこの一言はよい学校づくりのためには言うてはいけない一言だったのです。

「お金がない」の一言が招くのは“マネジメント空間認識の矮小化”です。

マネジメント空間認識の矮小化とは、自治体の学校予算制度や各学校における予算・財務体制の態様が、学校構成員のマネジメントの範囲（学校課題や資源の認識）・時系列認識を狭めることを言うのだそうです。

教職員が何か教育活動をしようと思ったとき、きっとお金や時間がないから無理だろうという思い込みで勝手に諦め、その結果、教育活動がどんどんこちんまりしたものになってしまうということが起きているのです。本当はその教育活動を実現することが可能な予算や時間、人材などの資源があるにもかかわらず、思い込みがそうさせるのです。

こうして、この学校では思うような教育活動ができないと思っている教職員が日本中にあふれているのだそうです。

では、マネジメント空間認識の矮小化を防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。

必要なのは、学校予算の情報について共有することです。授業等直接的な教育活動と予算や環境等の諸条件整備活動を結びつけることに私たちが積極的に関わり、マネジメントする必要があります。

今年度の学校の目標は何なのか、目標を達成するためにどんなことに取り組み、それには何円使えるのか、年度途中で何か挑戦したい教育活動が出てきたときに誰に相談すればいいのか、そのとき使える予算はいくらなのか、といった情報を教職員みんなが同じように知っている状態が理想です。

具体的にどのような取組をしていくか、実践例を交えながら講義は続きましたが、今回はスペースもなくなってきたのでこのへんで。

中央研修に参加して立派な人たちの素晴らしい研究や実践に触れ、私もやってみたくて思いましたが、学校に戻ってすぐに自分の仕事に生かそうと思ってもそう簡単ではありませんでした。しかし、安易にお金がないと言わないと決意をするのは自分次第ですぐに始められることです。みなさんも今この瞬間からお金がないと言わない実践を始めてみませんか。

ここまで、中央研修で印象に残ったことについて説明してきましたが、私の説明では不十分だったことと思います。もっと知りたい方は、ぜひ、今後の中央研修に参加して直接、講義や演習を体験してみてください。

学校紹介 浜田市立雲雀丘小学校

主任 佐々木 友幸

〈丘の上にある学校〉

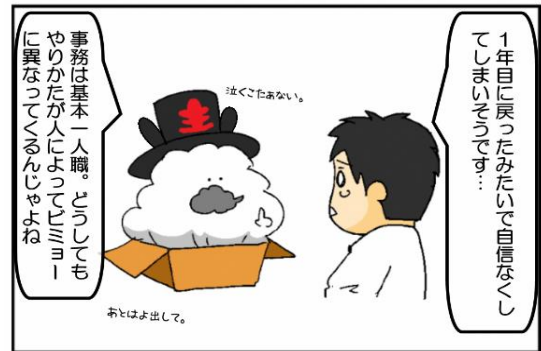
雲雀丘小学校は全校児童 57 名の学校です。本校は令和 6 年 3 月、明治 6 年の学校創立からちょうど 150 周年の節目に閉校することになっています。開校 50 周年記念事業で作成された記念誌「雲雀丘」には、昭和 31 年 4 月に前身の石見原井小学校から現在の場所への新築移転を機に雲雀丘小学校と称すようになったということが書かれていました。

学校名のとおり丘の上にある学校で、水産都市浜田市のシンボルである浜田マリン大橋が見えます。校地は自然に囲まれていて、校舎内でも天井裏で小動物が走ったり、謎の液体？が滴ってくることもあったりしました。自然と共生し、木造ならではの暖かみのある良い学校です。

さて、学校は今、閉校に向けて慌ただしく動いています。子どもたちは統合先の原井小との交流学习を進めています。球技大会など PTA を含めた交流活動も行われています。学校事務の面では、保存文書や備品の移動準備・廃棄を進めているところです。あと 8 ヶ月あまりとなりましたが、子どもたちと教職員が安心して次のステージに向かうことができるよう、学校事務職員として力を発揮していきたいと思っています。



ぼん と けん vol.12



原作・画 : 佐伯 圭一

【編集後記】

印刷室を時折覗くと、ロール紙の芯や画用紙の切れ端などが集めてあるのをよく見かけます。「またいつか使うかも」「また片付ければいい」と思ってそのままにしてあるのだと思いますが、このような時には某整理収納アドバイザーの「いつかは来ません!」という言葉が思い出されます。自分は「いつかは来ない」と思って捨てるのは簡単ですが、他の人にとっては必要なものかもしれませんので、相談をしながらよりよい印刷室になるよう整理整頓をしようと思うこの頃です。(I・Y)